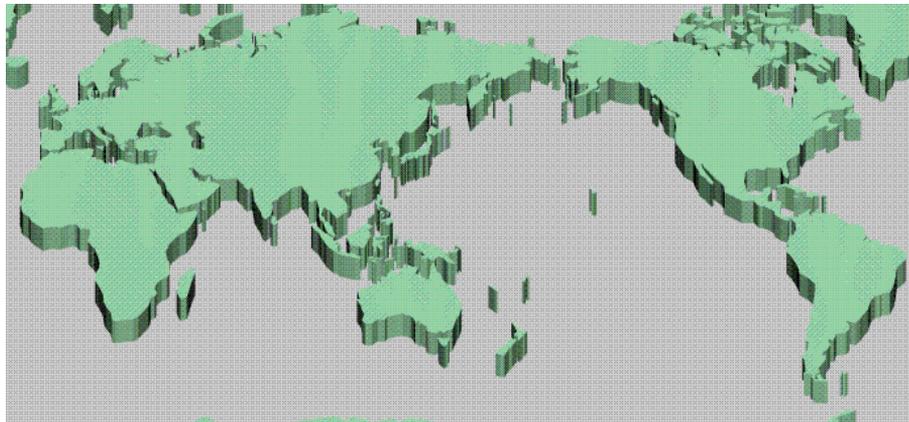


ニュースレター 第3号

2009年2月発行

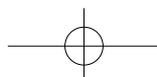
科学研究費補助金基盤研究(A)

大学における宗教文化教育の実質化を図る システム構築



目次

1. 各グループの活動報告	2
2. 報告(1) アンケート調査中間報告	5
3. 報告(2) 研究会	5
4. おしらせ	6
5. アンケート調査票	6



各グループの活動報告

下記のように第2回の全体会議が開催され、そこで2008年12月までの各グループの調査・研究の成果、また今後の計画等について討議された。

○第3回全体会議

日時：2008年12月28日（日）

12時00分～17時30分

会場：大正大学2号館8階

出席者 研究代表者・星野英紀（大正大学教授）の他、研究分担者、連携研究者、研究補助者を含め、計28名。

この会議で報告された各グループの研究実施内容は以下のとおりである。

第1グループ報告

全体の統括を行なっている第1グループからは、大学教育課程のなかでの宗教文化士と宗教文化教育の重要性を、就職活動が始まる前の1～2年次から提示することが重要あること、また、達成目標の設定も必要であることが提起された。さらに、宗教文化教育と宗教教育の区別は難しく、宗教文化教育の具体像が不鮮明であることが、制度化の際の課題であるという点や、宗教文化教育の意義と到達目標を学生の側に周知させることや、異文化理解教育と宗教文化教育を結びつけることも重要であるとの指摘がなされた。

第2グループ報告

教材の開発と資格認定試験の検討を目的とした第2グループからは、まず、2008年10月26日に國學院大學学術メディアセンターで開催さ

れた国際研究フォーラム「ウェブ経由の神道・日本宗教——インターネット時代の宗教文化教育のゆくえ——」についての報告があった。

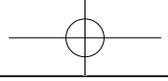
このフォーラムの内容の一部は、精神文化映像社制作のCSテレビ番組で12月18日、26日に、1時間にわたり放映された。

2008年11月6日、12月18日には、第2、第7グループ合同の研究会「海外勤務経験者の話を聞く会」が、國學院大學学術メディアセンターで開かれた。そこでは、インド及びその近隣諸国における海外勤務経験者、及び長年にわたる中国との交流の経験者、そして中東諸国、東南アジア諸国など、多くの海外の勤務経験者合計4名から、海外滞在の経験に基づく、さまざまな宗教文化に関わる局面についての説明を受け、質疑応答を行なった

今後は、海外勤務経験者だけでなく、配偶者や子供といったその家族についても視野に入れていくことの必要性も提起された。

日本のカトリックにおいて外国人信者の比率が増加しているという最近の報告に基づき、その実態をみることを目的とした、カトリック河原町教会（京都府）の調査（2008年12月13～14日実施）の結果が報告された。

第2、第4グループ合同の「宗教文化士」ニーズ調査のためのアンケート（2008年11～12月実施）についての報告がなされた。アンケートについては、現在までに30近い大学から結果を受領し、アンケート総数は5000名余におよぶと予測されている。中間段階ではあるが、「世界の神話」、「文化としての宗教」、「生活のなかの宗教」、といったものに学生たちの関心は集まっており、資格取得にも高い関心が



みられるという。(なお、質問票の内容については、7頁を参照)

また、2008年12月より、「宗教文化を学ぶためのリンク集」(仮)の作成のための作業が開始されたとの報告があった。

本科研の関連企画として、國學院大學研究開発推進機構主催の「第34回日本文化を知る講座 現代人にとっての神々の物語—教材としての神話—」(全4回)が、11月に國學院大學渋谷キャンパスで開講された。200名近くが参加し、「非常に興味深かった」という感想が得られたという。そして最後に、宗教学以外の宗教文化に関わる分野(美術、文学、建築学など)の方々から話を聞く、「宗教文化を広い視野から考える研究会」を、2009年2月から開始することが報告された。

第3グループ報告

資格認定のためのカリキュラムの検討を行っている第3グループからは、まず、宗教文化士資格の参考になると考えられる「国際日本検定」についての調査を実施したとの報告がなされた。国際日本検定の設立経緯とその現状、検定試験の方法、試験問題、国際日本検定協会の事務局、などが紹介された。同検定は、観光業界へ就職希望の学生を対象にしており、そういった学生たちに、外国人に日本を説明することや日本自体に関心をもってもらうことが狙いであるという。

続いて、京都・観光文化検定などのご当地検定についての検討結果が報告され、こういった検定は趣味としての需要が高いとの指摘があった。また、日本から海外への留学生用日本文化教材の検討結果では、日本人が留学した場合、日本について説明できないと困ら

め需要があるとのことであった。

第4グループ報告

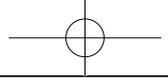
学生のニーズ調査などについて調査する第4グループからは、第2グループと合同で「宗教文化士」ニーズ調査のためのアンケートを実施したとの報告があった。

今後は、量的調査だけでなく、質的なニーズ調査も行なっていくことで、行政・市民団体等に対して宗教的知識や素養の必要性を提起していきたいとのことであった。

第5グループ報告

外来宗教実態調査などを担当する第5グループの活動報告では、群馬県伊勢崎市のムスリムに関する調査グループからの報告があった。モスクへの実地調査だけでなく、教育委員会への聞き取りも行なった結果、教育現場では言語教育の問題は重視しているが、それ以外は日本のやりかたを通してのことであった。言語教育については群馬県邑楽郡大泉町が特に積極的に行なっている、給食に関してはそれほど問題はないが、水泳や性教育では外国人の生徒がやや問題になっている、ムスリム人口はきわめて少ないため、教育現場でイスラームはほとんど問題視されていない状況にある、といった情報が提供された。教育現場は、宗教問題についてセンシティブな傾向にあるが、地域社会とムスリムの関係は友好的である印象だったという。

次に、群馬県太田市・同県邑楽郡大泉町の調査グループからの報告がなされた。同班では、日系ブラジル人のキリスト教会等への実地調査を行なった。今後の課題としては、日系新宗教の活動や静岡県浜松市での調査、



また、意欲のある若手研究者との研究協力体制の確立等が求められるとのことであった。

太田市ならびに大泉町は格好の調査地であるものの、昨今の日本経済の低迷が、在日外国人とその宗教に大きな影響を与えていくことが予想され、さらに、大泉町には多くの研究者が調査に入っているため、現地の被調査者たちも研究者に対してネガティブなイメージを抱きがちであるといったことが懸念されるという。

北海道の調査グループからは、今年度中に札幌市内の外来宗教施設の調査を実施する計画であるとの報告があった。

第6グループ報告

宗教文化教育に関する国際的な研究交流を推進する第6グループの活動報告では、各地の現地調査についての報告が、研究分担者及び連携研究者よりなされた。

稲場圭信より、カナダ・トロント調査の報告がなされた。カナダの教育制度について、一般の公立・私立学校とは別に公的資金によって運営され、宗教教育も行なう separate school というユニークな学校について説明がなされた。トロント大学での調査では、トロントの宗教文化教育の現状が報告された。ロンドン同様、300言語近くのコミュニティがあり、教育現場における宗教に関するコンフリクトは激しいため、宗教学者を含めた大学教員たちが教育現場にアドバイスしているとのことであった。

中牧弘允は、オーストラリア調査の報告を行った。モナシュ大学（メルボルン）、オーストラリア国立大学（キャンベラ）などの9人の

教員へのインタビューを実施したことが報告された。キャンベラの私立の男子校では、進化主義的な宗教観による伝統的なイギリス式の宗教教育が存続している状況を実感したという。また、大学の授業は現代的な宗教問題に関するものが多いとのことであった。

田中雅一は、イギリス調査の報告をした。2008年10月21日からの10日間で、アバディーン大学、エディンバラ大学、グラスゴー大学、スターリング大学、ランカスター大学、バーススパー大学の6大学を回り、リサーチ・アセスメント・エクササイズ（イギリスの研究評価システム）等についての情報収集を行った。

なお、インタビューをした教員の半数は、イギリスやヨーロッパの宗教を専門としている研究者だったが、東洋の宗教の研究者や人類学者もいたという。

韓国・香港調査班については、今年度内に調査を実施して海外との連携を進める計画であるという。韓国（ソウル大学）・香港（香港大学）の宗教教育の実情について調査する。韓国では、仁川に設立された中東文化院（イスラームセンター）や仁川のチャイナタウンを回って宗教文化を学ぶという現地の宗教教育の実態調査を、香港では、香港大学の多文化・多宗教教育の研究者や、宗教教育リソースセンター（キリスト教の聖職者が中心となって運営）への調査を予定している。

また、トルコ調査班からは、次年度に現地調査を行ない、多宗教を教えるような科目についての情報を収集する予定であるとの報告があった。

第7グループ報告

国外における関連の情報を収集する第7グループからは、第2、第7グループ合同の「海外勤務経験者の話を聞く会」を実施したことが報告された。

◇全体討議

全体討議では、第3グループがおもに関わるシラバスおよびカリキュラムの検討についての議論が中心となった。まず、宗教文化士資格の実現化と、ある程度の目標（自文化理解と他文化理解を涵養するための宗教文化教育）を検討するために、現段階で得られる情報を収集することの重要性が確認された。そして、「資格取得要件として単位と試験をどのような配分にするのかについて検討するために、メンバーにシラバスを提供してもらいたい」という提案がなされた。その結果、本科研の参加メンバーが担当する授業のシラバスを検討することにより、今後のカリキュラムやシラバスの設定に役立てていくことが確認された。

初年度はさまざまな調査や基礎的な資料・データの収集が中心的に実施された。これによって得られた知見をもとに、次年度からは理念・達成目標・具体的な実施方法をさらに明確にしていく段階となる。

そのためには、宗教文化教育の現状を把握することが重要であり、メンバー間で情報を共有しつつ調査を進めていくことが不可欠であることが確認された。

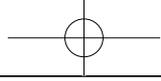
報告（7）

アンケート調査中間報告

前号で告知した「宗教文化士」ニーズ調査のためのアンケートが、2008年11月～12月に実施された。第4グループ（幹事：弓山達也；宗教文化教育に関するニーズ調査の実施）と第2グループ（幹事：井上順孝；教材・資格認定試験の開発・検討）が共同でアンケート項目を作成した（計11の調査項目については、5ページに掲載）。本調査の目的は、現在の大学生たちが抱く宗教文化への関心の状況を把握することにある。学生たちが宗教文化に対してもっているイメージや関心だけでなく、大学における宗教文化に関連した講義への学生たちの関心も捉えたいと考えている。

なお、本アンケート調査は、本科研のメンバーだけでなく、「宗教と社会」学会と國學院大學日本文化研究所が共同で行なってきた「学生宗教意識調査」の調査メンバーにもご協力いただき実施した。すでに30大学近くからアンケートの結果を回収しており、うち2000名余についてはすでにデータ入力が進んでいる。最終的には5000名余になると予想される。アンケートは、全国のさまざまな大学・短大・専門学校において実施され、宗教系・人文系の学生だけでなく、法学・経済学・自然科学といった分野の学生たちも対象となっている。

集計は途中段階であるが、「世界の神話」、「文化としての宗教」、「生活のなか



の宗教」などの問題について、学生たちの関心が高い傾向にあることが明らかになっている。また、資格取得に関しても総じて高い関心が示されている。とりわけ、信仰心はないものの宗教に興味がある層の関心の高さが顕著である。今後は、大学別・学部別などのさまざまなクロス集計を行なうことが可能であり、その結果は大学ごと、学部ごとに差が出てくることが予想される。最終的な集計結果については、今年度中に発行予定の報告書において公開される。
(ご関心のある方はニュースレター発行元まで E-mail でお問い合わせください。)

牧野淳司氏

(明治大学専任講師 中世文学)

○第3回「海外勤務経験者の話を聞く会」

日時 2009年2月5日(木) 13時半～15時半

場所 國學院大學 院友会館小会議室(大学のキャンパスに隣接)

講師 飯塚美葉氏(東京第一弁護士会・寺本法律会計事務所弁護士)

・飯塚氏は、法整備支援プロジェクトの長期専門家としてモンゴルに滞在されていました。現在も JICA 専門家として、アジア諸国の法整備を支援していらっしゃいます。

報告 (2)

研究会

○第1回「宗教文化を広い視野から考える研究会」

日時 2009年2月1日(日) 13時半～17時

場所 國學院大學 院友会館小会議室(大学のキャンパスに隣接)

講師 五十嵐太郎氏

(東北大学大学院准教授 建築学)

お知らせ

○第4回全体会議

日時 2009年3月を予定

議題 2008年度の各グループの研究・調査の報告

2009年度の活動計画

その他

<<<<< アンケート調査票 >>>>

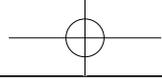
次の1～11の質問に教えてください。回答の選択肢に番号がふってあるものは、番号を○で囲んでください。

1. あなたの生まれた年と性別を教えてください。

・生まれた年 19[]年 ・性別 1. 男 2. 女

2. あなたが所属する学科等と学年を教えてください。

・所属 []大学 []学部 []学科・専攻(あるいはコース) ・学年 []年生



3. 次の質問に「はい」「いいえ」で答えてください。

- | | |
|---|--------------|
| 1. 外国人に日本の宗教のことを少しは説明できるようになりたいと思いますか | 1. はい 2. いいえ |
| 2. 宗教によっては、食べられない食べ物があることを知りたいと思いますか | 1. はい 2. いいえ |
| 3. 国際情勢を深く理解するために、もう少し宗教の知識を増やしたいと思いますか | 1. はい 2. いいえ |
| 4. 宗教が関係した事件や紛争の背景を知りたいと思いますか | 1. はい 2. いいえ |
| 5. 国ごとの宗教による人々の生活の違いを知りたいと思いますか | 1. はい 2. いいえ |

4. 「宗教文化」に関係する講義には次のようなものが含まれますが、このうち履修してみたいと思う内容があったら番号を○で囲んでください。(いくつ○をつけてもいいです)

1. 日本の伝統的宗教のしきたり
2. 新宗教と呼ばれている近代以降の新しい宗教の活動
3. キリスト教徒の生活
4. 暮らしの中の仏教
5. ムスリム（イスラム教徒）の戒律と実生活
6. 宗教が文学・音楽・美術・建築・映画などの文化に与えた影響
7. 宗教と観光・文化遺産との関わり
8. 世界の神話
9. 社会の出来事や国際問題と宗教との関わり
10. 現代のカルト問題
11. 生き方や死後の世界などについての、それぞれの宗教の教えの違い
12. その他 [具体的に]

5. 次の職業のうち、日本や世界の「宗教文化」についての基礎知識があった方がいいと思う職業があったら、番号を○で囲んでください。(いくつ○をつけてもいいです)

1. 小学校、中学校、高校などの教員
2. 官庁や市役所などに勤める公務員
3. ホテル、旅行業者など観光関連の職業の人
4. 国外勤務が多いことが予想される会社員
5. 宗教関係（神職、僧侶、牧師、教団職員など）
6. 病院や福祉関連施設に勤める人
7. テレビ局・新聞社・出版社などマスコミ関係の人
8. その他 [具体的に]

6. 大学で一定の単位（12～20単位程度）をとり、最終試験に合格した場合に、「宗教文化士」の資格を与えるという計画があります。あなたはこの資格をとりたいと思いますか。

1. とりたいと思う
2. 条件（単位、取得費等）によってはとりたいと思う
3. あまりとりたいとは思わない
4. とりたいと思わない

